

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(桑名北高等学校)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿		生徒と共に創る教育活動をととして、地域に信頼される北高
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生 ○ 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生 ○ 以下に示す「7つの力」を身に付けた北高生 ①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力 ⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力
	ありたい教職員の姿	○ 生徒一人ひとりの夢や目標の実現に向けて、学習意欲を引き出す授業の工夫・改善に努めている教職員 ○ 生徒が社会的・職業的自立の基礎となる能力や態度を身につけられるよう、同僚と連携・協働し、適切に指導・支援を行える教職員 ○ 教育者としての自覚と規範意識を有し、生徒への愛情と教育に対する強い責任感をもって教育を実践する教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践、総合的な探究の時間「みらい」における3年間の系統的なキャリア教育、「朝の学習の時間」などにより、社会的・職業的自立の基礎となる資質・能力を獲得できる。 【保護者(各家庭、PTA)】 生徒が安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、生徒や保護者が望む進路希望実現に向けた的確な指導・支援が受けられる。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【保護者】 ○ 安全・安心で信頼できる学校 ○ 学力向上・進路保障が実現できる学校 【地域】 ○ 社会性を身につけた生徒の育成 ○ ボランティア活動、防災等での連携 【中学校】 ○ 学力・体力の向上 ○ 多様な課題を持つ生徒の受入れ 【事業所、NPO】 ○ コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着 ○ 忍耐力の育成	【保護者】 ○ 教育活動への参画、家庭教育の充実 ○ 親子の豊かなコミュニケーション 【地域】 ○ 学校教育活動への理解と連携 ○ 地域の教育力の活用 【中学校】 ○ 緊密な中高連携と相互理解 ○ 中学生への本校の特色や取組の発信 【事業所、NPO】 ○ キャリア教育充実のための連携強化 ○ 求人数の増加

(3)前年度の学校関係者評価など		1 教員研修の取組 授業改善に向けた職員研修を行い、生徒が授業において理解できるよう取り組んでいることは続けてもらいたい。教員研修に大学教員(四日市大学)を活用することもできる。 2 フレキシブル高校への期待 中学校では、不登校や教室に入れない生徒が一定数いる中で、令和9年度からはじまるフレキシブル高校の設置が生徒の選択肢のひとつとなることから期待している。 3 自主的な地域活動の参加 生徒が積極的に地域活動に参加することが、学習に良い影響がでていることが、桑名北から進学した学生の様子からもうかがえる。 4 地域との連携 昨年に比べて登下校の様子をみていると、生徒は落ち着いていると感じる。地域との交流を深め、活気街づくりに貢献してもらいたい。
(4)現状と課題	教育活動	1 外部人材や機関との連携 多様な環境のもとで育ち、様々な支援が必要な生徒の入学が増えてきたことから、引き続き、校内で情報共有や研修をすすめて、教職員の力量を高め、生徒を支援していくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、高校生活スペシャルマネージャー、外国人生徒支援専門員、児童相談所等外部人材や機関との連携を深めていく必要がある。 2 指導方法の見直し 学校生活において、規範意識が低く、生徒指導に係る特別指導を要する生徒が多くなっている。また、中途退学者や転学者が増加していることから保護者と連携を図り、前向きな学校生活を送ることができるよう、指導の改善を図る必要がある。
	学校運営等	1 学校運営や組織の見直し クラス数の減少に伴い教員定数が削減されていくことから、これまでの業務のあり方や学校運営が難しくなっている。業務分担の在り方や業務量を見直す等、引き続き働き方改革の取組を進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	【「自律・誠実・協働」の心を持った生徒を育む教育活動の推進】 ・生徒が社会的・職業的自立の基礎となる能力や態度を身につけ、希望の進路を実現できるよう指導・支援する取組の充実 ・人と人とのつながりの大切さを学べるよう、自他の理解、人間関係形成能力、コミュニケーション能力の育成を目指した学習活動の推進 ・多様な学習ニーズに対応した教育機会を確保する取組の充実 【学力の定着と向上】 「桑北スタンダード」の「活用」による「7つの力」の育成 【キャリア教育の推進】 好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映 【生活習慣の確立】 丁寧で粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着、生徒の自主的な活動の推進 【安全・安心の学校づくり】 安全教育の推進と感染症予防対策、危機管理体制の強化
学校運営等	【円滑で戦略的な組織運営】 会議の精選、日常的な情報共有、本校の実情に合った教育課程の編成・実施 【信頼の確保と指導力の向上】 日々の研鑽や研修を通したコンプライアンス意識の向上、指導力の向上の取組 【開かれた学校づくりの推進】 学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発

【働き方改革の実効性の向上】
計画的な業務の進捗管理、業務の精選の徹底

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 ○ 明確な進路意識を持って学業に取り組める生徒 ○ 部活動や生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 学力の定着と向上	【1学年】 ① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 【活標】 ① 朝学や日頃の授業にきちんと取り組ませることで、基礎学力を定着させ、基礎力診断テストにおける成績の向上を図る。 ② 各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。 【2学年】 ① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 【活標】 ① 基礎力診断テストや実力診断テスト、朝学を通して基礎学力(小学生～中学生の範囲)の定着を図る。また、考查期間中に考查前勉強を実施する。放課後 30 分程度、全員で勉強をする時間を確保し、考查に向けて万全の準備ができるようサポートしていく。 ② カレッジクラスにおいて、校外模試を推奨し、課外授業で対策授業を行い、進学に向けて必要な学力をつける。 【成標】 ① 基礎力診断テストの評価で D3の人数を前回の 76 人から 35 人以下、学年評価 C 以上。 ② 基礎力診断テストの評価 A ゾーン 2 名以上、B ゾーン 10 名以上。実力診断テスト3教科 200 点以上を3名以上。 【3学年】	(年度末および適宜記載)	

	① 基礎学力の定着 ② 学力上位層の実力伸長 【活標】 ① 基礎力診断テストや授業、朝学を通して基礎学力の定着を図る。朝学で継続的に一般常識ワーク等に取り組むことで進学・就職に向けた準備をする。 ② 校外模試の受験や課外授業の受講を促し、自身の学力の定着度や勉学への意欲を高めていく。カレッジクラスは発展課題や追加課題を準備し、受験の対策をする。 【成標】 ① 基礎力診断テストの評価で D3 の人数を 30 人以下、学年評価 C3 以上。 ② 基礎力診断テストの評価 A ゾーン3名以上、B ゾーン 10名以上。 【教務総務部】 ① 生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。 【活標】 授業において、可能な限りペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。 【成標】 生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答:70%以上 ② わかる授業を実現する。 【活標】 ICT の活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。 【成標】 生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答:80%以上。 【進路指導部】 ① 基礎力診断テストの企画と運営 ② 成績指標GTZの分析 【活標】 ① 基礎力診断テストの在籍者全員の適正な受験 ② D3層をはじめすべての生徒への学力向上の働きかけ 【成標】 ① 在籍者の100%受験と各回における全マークシートの確認 ② D3の割合を各学年・各回で40%以下、C以上30%		
--	--	--	--

重点② キャリア教育の推進	【1学年】 職業観を養うキャリア教育 【活標】 「はたらくってどんなこと？」というテーマで探究をインターンシップと連動させ、職業観や自身の将来の展望について自分なりに考えが出せるようにする。 【成標】 探究やインターンシップでの活動を通して、職業観を養う。また、自身の進路実現に必要なものを理解することができる。 【2学年】 ① 進路選択に合わせたキャリア教育 ② 防災の学習を通じて「生きる力」を育む 【活標】 ① 「探究」の時間に自分が目指す進路に向けて自己分析ができる教材や情報を提供する。企業や上級学校の方に直接話を聞いたり、見学したりする機会を作る。 ② 「探究」の活動で防災をテーマに年12回のメニューを組み、発表(ポスターセッション)する。 【成標】 ① 自分に合った職種や仕事を知るために外部サイトを使用してデータとして残し振り返りができるようにし、たくさんの仕事の種類や中身を知る。また、希望する仕事が決まっている生徒は、その仕事についての知識や理解を深める。 ② 防災について必要な知識を身につけ、修学旅行(東北)での経験を活かしながら、地域とともに連携し、災害を自分事として捉える。各自が能動的に取り組み、周囲と関わり合いながら、自助、共助、公助の視点を育む。 【3学年】 ① 進路実現 ② 社会との接続 【活標】 ① 進路別集会、みらいセミナー、面接練習等の進路行事と連動しながら進路実現に向けた学年の気運を高めていく。学年独自の取り組みを企画し、生徒の積極的な参加を促す。カレッジクラスの進学対応に関して、面接練習など学年全体でサポートしていく。 ② 社会との接続を意識した「みらい」での行事・各種セミナーを通して、今後のキャリアイメージをもったうえで卒業させる。 【成標】 ① 学年独自企画、参加率50%以上。進路決定100%。 ② 今年度3学年127名全員卒業。 【生徒指導部】 ① 挨拶が行き交う学校づくりを行う。 【活標】 朝の挨拶運動や校内での積極的な声かけを通して、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 ① 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答が90%以上。		
---------------------------------	---	--	--

	② 身だしなみ・頭髮の指導を行う。 【活標】 各学期実施の「頭髮服装指導」と朝の昇降口指導を基本とし、必要な生徒には期日までの改善を指示する。 【成標】 学期ごとの改善対象生徒数減少 【進路指導部】 ① 総合的な探究の時間「みらい」の計画と実施 ② 3年生の進路実現のサポート 【活標】 ① 総合的な探究の時間「みらい」の計画的で適切な運用 ② 納得感のある進路決定と進路定着を意識した進路指導の実現 【成標】 ① 学年とのみらい打ち合わせ実施100% ② 第1志望実現率95% 前年度卒業生の1年後の職場定着90%		
重点③ 生活習慣 の確立	【1学年】 ① 遅刻数の減少 ② 欠席数の減少 ③ 整理整頓 【活標】 ① 時間を守ることの大切さを教える。また、事前の準備や確認ができる環境を整えていく。 ② 規則正しい生活や食生活などの重要性を伝え、さらに家庭と連携しながら、子ども達を学校だけでなく各家庭でもサポートし、心身の健康の維持に努める。 ③ 授業や放課後などで、各教室の机上や個人ロッカーの周辺など、荷物や授業関係の物が整理整頓できるよう声かけをしていく。 【成標】 ① 学年遅刻数の昨年度比減。 ② 学年欠席数の昨年度比減。 ③ 放課後に荷物の置き忘れやしまい忘れゼロを目指す。 【2学年】 ① 遅刻・欠席数の減少 ② 身だしなみを整える ③ 整理整頓 【活標】 ① 遅刻者には時間を守ることの大切さを教え、欠席者には規則正しい生活や食生活などの重要性を伝え、家庭と連携しながら、子ども達を学校だけでなく各家庭でもサポートできる体制を整えていく。 ② 服装・頭髮について身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③ 授業や放課後などで、各教室の机上や個人ロッカーの周辺など、荷物や授業関係の物が整理整頓できるよう声かけをしていく。 【成標】 ① 学年遅刻・欠席数の昨年度比減。		

	② 毎朝の SHR に全クラスで身だしなみチェックを徹底する。 ③ 放課後に荷物の置き忘れやしまい忘れゼロを目指す。 【3学年】 ① 遅刻・欠席数の減少 ② 身だしなみを整える ③ 挨拶と正しい言葉遣いができる 【活標】 ① 遅刻・欠席生徒と対話し、家庭とも連携する。 ② 服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。 ③ 教員が挨拶を率先垂範し、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。 【成標】 ① 学年遅刻・欠席数の昨年度比減。遅刻率 2%以下。 ② 毎朝の SHR に全クラスで身だしなみチェックを行う。 ③ 生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答率90%以上。 【生徒指導部】 ① 全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。 【活標】 遅刻指導を行い、生活リズムを正すきっかけをつくるとともに遅刻数増加のはじめとする。遅刻の累積数に応じて指導を行い、生徒自身の現状把握につなげる。 【成標】 ① 全学年の遅刻者率が各学期・年間で3%以下。 ※遅刻者率＝遅刻者数／(在籍者数×授業日数) ② 授業を大切にし、時間を守って臨むことができるよう指導する。 【成標】 怠け学指導件数昨年度比減。 【保健部】 良い習慣を身に付けるための指導、啓発を行う。 【活標】 朝食や睡眠など、基本的な生活習慣の確立についての指導・啓発を行う。 【成標】 ① 入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導:1回ずつ。 ② 保健だよりの発行:年間 10 回以上、必要に応じて随 時発行。 ③ 掲示物の作成:年間2回以上。 ④ 保健調査や健康診断結果による面談。 ⑤ 来室時における個人指導などの実施。		
--	--	--	--

重点④ 安全・安心の学校づくり	【1学年】 ① 家庭との連携 ② 早期のいじめ認知、対応 ③ 教員・生徒、家庭間で対話がしやすい雰囲気作り 【活標】 ① 学年通信の発行。学校から保護者、保護者から学校と両方向からの情報共有を大切にし、家庭との連携を強めていく。 ② いじめに対する教員のアンテナを高くし、日頃から生徒の変化に注意を払い早期発見を目指す。また、情報共有をこまめに行い早期対応に努めていく。 ③ 学年全体で生徒・家庭との対話を大切にし、大小関わらず、まずは話を聞く・する姿勢を持ち、良い信頼関係を構築していく。 【成標】 ① 連絡なしの欠席・遅刻、連日の欠席・遅刻、人間関係のトラブル、成績の不良など気になることがあれば家庭への連絡を実施。また、家庭での生徒の様子なども情報を共有する。 ② いじめの重大事案0件 ③ 日常会話など普段からの生徒や保護者との対話の機会を作り、起こった問題に対しては早期対応・解決していく。 【2 学年】 ① 家庭との連携 ② 早期のいじめ認知、対応 ③ 教員・生徒、家庭間で対話がしやすい雰囲気作り 【活標】 ① 学年通信の発行。学校から保護者、保護者から学校と両方向からの情報共有を大切にし、家庭との連携を強めていく。 ② いじめに対する教員のアンテナを高くし、日頃から生徒の変化に注意を払い早期発見を目指す。また、情報共有をこまめに行い早期対応に努めていく。 ③ 学年全体で生徒・家庭との対話を大切にし、大小関わらず、まずは話を聞く・する姿勢を持ち、良い信頼関係を構築していく。 【成標】 ① 連絡なしの欠席・遅刻、連日の欠席・遅刻、人間関係のトラブル、成績の不良など気になることがあれば家庭への連絡を実施。また、家庭での生徒の様子なども情報を共有する。 ② いじめの重大事案0件 ③ 日常会話など普段からの生徒や保護者との対話の機会を作り、起こった問題に対しては早期対応・解決していく。 【3学年】 ① 家庭との連携 ② 清潔な学習環境 ③ 早期のいじめ認知、対応 【活標】 ① 学年通信の発行をする。学校で少しでも気になる様子があれば家庭へ連絡をし、情報を共有する。 ② 教員が率先して整備を行い、放課後、教室の机上やロッカーに荷物が無いよう指導する。 ③ いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動	
--	--	--

に注意して早期発見・早期対応を行う。 【成標】 ① 連絡なし欠席、人間関係、成績等、こまめに保護者連絡を実施。 ② 毎日の清掃、放課後の教室整備を実施。 ③ いじめの重大事態0件。 【教務総務部】 自他の人権を守る実践行動を身につけることを目的とした人権教育を実施する。 【活標】 ① 年度始め、年度末に生徒アンケートを実施。生徒の実態把握、人権課題に合った人権 LHR のテーマ設定をする。全学年人権 LHR を 2 回、人権講演会を年1回実施する。生徒の自主的な活動の充実。 ② 教職員の知的理解・人権感覚の向上を務める。 【成標】 ① 人権学習前後のアンケート実施により、生徒の人権感覚、実践行動の変化を把握し、向上をめざす。 ② 研修後の教職員アンケートによる意識を把握し人権感覚の向上をめざす。またふりかえりにより教職員研修の内容見直しを行う。 【生徒指導部】 ① 交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。 ② いじめのない生徒関係の構築を行う。 【活標】 ① 交通安全セミナーや講話を通して交通マナーの大切さや、事故防止について発信する。 ② いじめ防止講話や学校生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 【成標】 ① 登下校時加害・自損事故件数5件以下。 ② 年3回、学校生活アンケートを実施し、活用する。 【保健部】 ① 生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。 ② 感染症に対する予防的措置を講じる。 ③ 安全・安心を確保するため、非常時の対応力の強化を図る。 【活標】 ① 1年生:養護教諭と保健体育科の連携による性教育や外部 講師を活用したデートDVについて指導する。 2年生:健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育を行う。 3年生:専門性の高い外部講師を招き、妊娠・出産について の性教育を行う。 ② 手洗い石鹸の設置と活用を進める。教室の換気を推進する。 ③ 1年生と全教職員に AED 講習を実施し、適正に取り扱うことができる。		
---	--	--

	【成標】 ① 各予防教育実施後の生徒アンケート満足度:各 85%以上。 ② 各フロアに設置、補充。保健講話やたよりにて意識を啓発する。 ③ 講習への参加:80%以上		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 円滑で戦略的な組織運営	【学校運営】 各委員会の活動を「目指す学校像」の実現にむけて収斂させることで、本校の教育課題の解決を図る。 【活標】 ① 「企画委員会」:毎月1回開催、「主任会議」適宜開催 ② 個別の課題に対しては、「学力向上委員会」「キャリア教育委員会」「いじめ防止委員会」等を随時開催、適切に対応する。 【成標】 中長期的な本校の教育活動の方向性についての職員間の共有と、喫緊の課題の効果的な解決を図る。	(年度末および適宜記載)	
重点② 信頼の確保と指導力の向上	【学校運営】 「学校信頼向上委員会」の主導による研修、コンプライアンス・セルフチェック、管理職による面談、人権研修、いじめ防止研修等の実施により、信頼の確保を図る。 学力の定着と授業力向上を図る。 【活標】 ① それぞれの研修:年1回以上実施 ② セルフチェック:年4回実施 ③ 管理職による授業見学:年1回以上実施 【成標】 ① 体罰、セクハラ等不祥事の根絶:0件 ② 生徒、保護者、中学校、地域との連携と信頼関係を深める。 ③ 授業改善に向けた周知:1回以上 【教務総務部】 ① 教員の授業力向上を図る。 ② 教員の ICT 活用力の向上を図る。 【活標】 ① 教員の授業力向上を目的とした授業公開を年2回、授業研究(相互授業見学)を年1回以上実施する。 ② 教員の ICT 活用力向上を目的とした研修会を実施する。 【成標】		

	① 一人当たり1回以上の授業見学の実施:100%。 ② 授業支援ソフト「WinBird」を活用するための教員研修を1回以上実施する。		
重点③ 開かれた学校づくりの推進	【学校運営】 家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図るとともに、学校関係者評価委員会、PTA 役員会、生徒会等の改善提案を生かした学校づくりを行う。 【活標】 ① 学校実態調査アンケート:年 1 回実施 ② HP、きずなネット、Google Classroom、報道機関等を活用した効果的な情報発信 ③ 前年度の学校関係者評価委員等から提出された改善提案に関連する事例:2件以上 【成標】 ① 本校の諸取組への肯定的評価:80%以上 ② 必要な情報発信:100% ③ 教職員アンケート:満足度 90%以上		
重点④ 働き方改革の実効性の向上	【学校運営】 総労働時間の削減を進めるため、時間外労働時間の上限を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。 【活標】 ① 定時退校日の定時に退校できた教職員の割合:80%以上 ② 計画した日に休養日を設定できた部活動の割合:100% ③ 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合:90%以上 ④ 各教職員が設定した独自の目標の達成率:80%以上 【成標】 〈時間外労働時間〉 ① 年 360 時間を超える教職員数:0人 ② 月 45 時間を超える教職員の延べ人数:0人 ③ 一人あたりの月平均時間外在校等時間:15 時間以下 〈健康確保・やりがいの向上〉 ① 一人あたりの年間休暇取得日数:前年度比 1 日増加 ② 外部の任意研修への参加奨励:希望者全員		
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
----------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	(年度末に記載)
学校運営について の改善策	(年度末に記載)